「育てる広場」プロジェクトのプロセス

市民とともに使い方やルールを考える、運営に関わる市民を増やしていくなど、さまざまな参加のかたちをつくってきました。プロジェクトを進める上で大切にしたのが、とにかくやってみる、使ってみること。うまくいったところもいかなかったところも、次のプロジェクトにいかしていくことを意識しました。その結果、プロジェクトから生まれた人と人とのつながりや小さな成果の積み重ねが、まちを変えていく大きな流れになっていきました。「育てる広場」プロジェクトの育っていく過程を“スパイラルアップ”ととらえ、プロジェクトからの学び、ひろば、ひと、それぞれのスパイラルアップを紹介していきます。

「育てる広場」をコンセプトにさまざまな取り組みやワークショップ、社会実験を繰り返しながら市民とともにつくりあげてきたおにクル。2016年度の「100人会議」では市民会館の跡地活用について市民に任せてほしい！という声があがり、「育てる広場」というコンセプトが生まれました。2018年度は、とにかくやってみて、やった結果をふりかえり、次のやってみようにいかしていく、そんな考えからたくさんの実験的な取り組みにチャレンジしており、プランターやこたつ、さらには期間限定の芝生広場まで、みんなで一緒につくって、多様な市民企画が展開されました。

2020年度にはIBALAB@広場がオープン。イベントやマルシェ、ものづくりや講座など、さまざまな活動プログラムを通じて広場の使い方やルールが生まれていきました。やってはいけないという禁止のルールはつくらず、まずはやってみる、やった結果から課題になったことを解決していく流れが共有されていきました。

2021年度からはおにクルを使いこなす活動主体の発掘を進めていきました。ここでも大切にしたのはとにかくやってみる。自分たちにできる範囲で小さく始めてみることから、おにクルでのさまざまな活動が生まれました。2022年度以降は市民活動コーディネーターの育成や庁内職員に向けた協働を考える研修など、人材育成にも取り組みました。

プロジェクトからの学び

“とにかくやってみる”は全てのプロジェクトに共通して取り入れてきたことです。そこから得たさまざまな学びや気づきをいかしながら、さらに新たな方法を取り入れていく。やってみるを繰り返して、関わる人や場所、プロジェクト自体が成長してきたスパイラルアップのプロセスが、「育てる広場」プロジェクトの最大の特徴です。

1

聞く・話す

100人会議

市民会館跡地の活用をどうしたい?というところから市民が考え、市民が未来を描く。行政が主導するのではなく、市民の力を信じて任せてみることで、最初のスパイラルアップが始まりました。

2

まずはやってみる

育てる広場プロジェクト

とにかくやってみよう!つくって、使ってみることが大切。話し合いだけではなく、手を動かし何かを一緒につくるワークショップも重要。自分たちで芝生をはったり、ベンチをつくったりすることで、公共空間に対する意識が変わったり、おにクルに必要な機能もみえてきました。

3

視点が変わり始める

暫定広場の使い方を考えよう!やってみるDAYS

暫定広場でさまざまなイベントや活動プログラムが開催され始めたことで、まちが変わり始めるきっかけに。広場での活動を企画することを通じて、まちに関心を持つ市民も増えていきました。さまざまな企画が広場で展開される中で運営方法も試行錯誤していきました。

4

しくみをつくる

いばらきひらこか・ルールづくり会議

コンセプトを考えることの大切さを共有する機会となりました。コンセプトはつくって終わりではなく、その後も活用されてこそ意味のあるものです。「ルールづくり会議」から生まれたIBALAB@広場の活動で大切にしたいコンセプトは、活動プログラムの主催者が広場でのプログラム内容を考える際の指針になっています。

5

プレーヤーを増やす

ミルミルフムフムツクール

デザイン思考を身に付けることが活動のバージョンアップにつながります。クリエイティブに課題を解決できる市民を一人でも多く増やしていくことが大切。自分たちのやりたい活動をただやるのではなく、どうやったらより多くの市民が参加できるのか、気が付いたら活動に参加していたという状況をつくることができるのかを考え、活動にしていきました。

6

仲間と共有する

ひろばかいぎ

IBALAB@広場を使っている主体が集まり、日々使う中での困りごとや工夫していることなどを共有する場として開催しました。利用している人同士だからこそわかること、共感できることがあり、それぞれが個々に活動しているだけではなく、共有する場をつくることで一体感が生まれていきました。

7

サポーターを育てる

おにクルへ行こう！大作戦

おにクル関係課とのコラボプログラムの開催。イベント当日にブース出店する人たちだけではなく、イベントを盛り上げるサポートスタッフも募集。事前の企画会議からふりかえり会までを開催することで、イベントをやって終わりにしない次につながる流れをつくりました。

8

コーディネーターを育てる

コトレッジ

市民活動を続けていくためには、コーディネーターの存在が必要不可欠です。日々の活動の相談にのったり、新たなことにチャレンジする際に背中を押す役になったり。一緒に活動する仲間や新たな活動場所をつないでくれたりする役割を担うコーディネーターを市民から養成し、活躍できるしくみを検討しました。

9

市役所も変わる

CFT（部門横断チーム）、庁内勉強会

市民だけではなく行政職員の共創に対する意識を醸成していくことも大切です。市民だけではできないこと、行政だけではできないことを市民と行政が連携することでできることがあります。行政内部からも共創の機運を高めていきました。

ひろばのスパイラルアップ

IBLAB@広場はつかうとつくるを繰り返していくうちに、新しい人や活動が増え、さらにそれらが空間を共有（シェア）できる広場に育っていきました。最初はシンプルだった広場の景色が徐々に使う人が増え、使われ方や広場での過ごし方も多様化していきました。広場が現在のような場になるまでに、どのようなことが起きていたのか、市民がオペレーションできる広場にしようという目標を掲げプロジェクトを進めてきた行政の考え、動きを交えて、広場のスパイラルアップのプロセスを紹介します。

1 行政主導で広場をつくる

市民会館の跡地を芝生の広場として整備しました。

2 思いきって広場をひらく

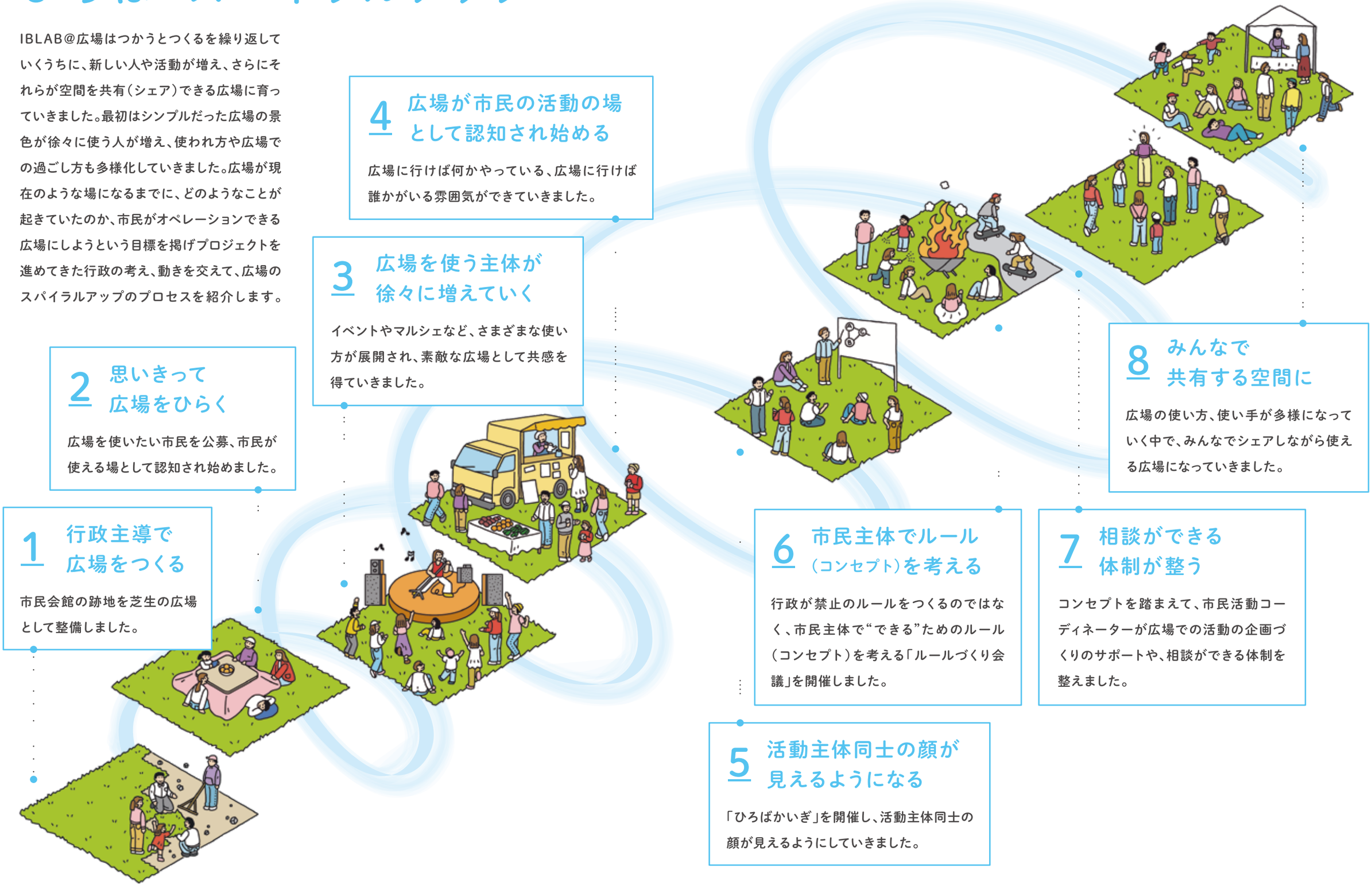
広場を使いたい市民を公募、市民が使える場として認知され始めました。

3 広場を使う主体が徐々に増えていく

イベントやマルシェなど、さまざまな使い方が展開され、素敵な広場として共感を得ていきました。

4 広場が市民の活動の場として認知され始める

広場に行けば何かやっている、広場に行けば誰かがいる雰囲気ができていきました。



5 活動主体同士の顔が見えるようになる

「ひろばかいぎ」を開催し、活動主体同士の顔が見えるようにしていきました。

6 市民主体でルール（コンセプト）を考える

行政が禁止のルールをつくるのではなく、市民主体で“できる”ためのルール（コンセプト）を考える「ルールづくり会議」を開催しました。

7 相談ができる体制が整う

コンセプトを踏まえて、市民活動コーディネーターが広場での活動の企画づくりのサポートや、相談ができる体制を整えました。

8 みんなで共有する空間に

広場の使い方、使い手が多様になっていく中で、みんなでシェアしながら使える広場になっていきました。

ひろばのスパイラルアップ×行政の動き

ここからはひろばのスパイラルアップを支えた行政の動きを紹介します。

START

行政主導で広場をつくる

社会実験という枠組みをつくる

空間は“暫定”整備、広場で起こるすべてのプロジェクトを“社会実験”という立て付けで、市民がどう広場を使うかを試してみました。行政で枠組みをつくりすぎないこと、市民に任せてみることが大切です。

1

思いきって広場をひらく

市内のイベントに出かけてみる

広場をひらくだけですぐに誰かが使ってくれるわけではありません。待つだけではなく市内のイベントに出かけてみること、そこで市内で活動する団体のことを知り、市民の知り合いを増やしていくと、広場を使ってくれる人も少しずつ増えていきます。

2

広場を使う主体が徐々に増えていく

イベントやプログラムを固定化しない

音楽イベントやマルシェなど、規模もジャンルもさまざまなものが開催されるように、市民から相談のあった企画についてはできるだけNGを出さないように、相談に乗りながら広場という公共空間で実現できる方法を一緒に考えました。

3

広場が市民の活動の場として認知され始める

市民のやりたいことと行政ができることを組み合わせる

市民が企画したイベントやプログラムが開催されるようになった後、より広場で過ごしたくなるようなしかけ、行政としてできることを考えました。キッチンカーを呼んでみたり、広場の中にカフェをつくってみたり。結果、ふらっと広場に立ち寄る人が増え、広場に行けば何かやっていることが知られるようになりました。

4

活動主体同士の顔が見えるように

広場を使う団体や個人が知り合える機会をつくる

広場でイベントやマルシェを開催している人たちが知り合える機会「ひろばかいぎ」を開催することで、広場を使う上での工夫や課題を共有することができました。そこで知り合った人同士が、今度は一緒にイベントをしてみるなど個々の取り組みが徐々に混ざり合っていきました。

5

市民主体でルール（コンセプト）を考える

利用者目線を大切に

広場の利用が増えると、苦情もないわけではありません。いろいろな禁止事項を増やしたくなりますが、市民がオペレーションする広場を目指すためには、市民自身が広場で一緒に過ごす人のことを考え、どうしたら快適な広場空間になるのかを考えていくことが必要です。「ルールづくり会議」では、市民が利用者目線で、広場やゆくゆくはおにクルを使う上で大切にしたいこと（コンセプト）を整理しました。行政ではコンセプトを踏まえて、条例に関するものや、運営や利用に関するルールを整理していきました。

6

相談ができる体制が整う

初めて広場を使う人にも寄りそう

広場の認知度があがり、リピーターも増えていきます。しかし、初めて広場を使ってみたい人、初めて活動プログラムをやってみたいと思う人たちに対しても参加の間口を広げることが大切です。市民活動コーディネーターが常駐したことで、広場でやってみたいことをアイデアベースで持ち込んでくれる市民が増え、相談する中から新たな企画が生まれるようになりました。

7

みんなで共有する空間に

さまざまな“ひと”や“こと”が混ざり合う広場に

広場をすべて使って大きなイベントを開催するだけではなく、小さなイベントを組み合わせてみたり、ふらっと広場に来た人も心地よく過ごせるように空間や時間に余白をつくるようにしました。さまざまな“ひと”や“こと”が広場を共有しながら使うことでさまざまな広場での過ごし方、使い方が生まれ、まさに多様な場になっていきました。

8

ひとのスパイラルアップ

「育てる広場」プロジェクトのスパイラルアップは、関わる人たちにもさまざまな変化が起きました。
ここでは、そんなひとに着目し、タイプ別に整理したひとのスパイラルアップをご紹介していきます。

A子さん

- 35歳、茨木市在住10年
- 夫と小学生の2人のこどもと4人暮らし
- 自営業を営む夫をサポートしながら、自宅でエステサロンを開設
- 趣味は音楽、カフェ巡り
- 興味・関心ごとは、ハンドメイドや食を通じたエコな生活

❶ 広場に遊びにくる一市民

❷ いばらきマルシェの活動に共感。主催者に声をかけ、手伝うようになる

❸ 広場で活動している知り合いが増えていく

❹ 自分も広場で何かやってみようかなと思いはじめる

❺ 仲間を集め、企画づくりをスタート

❻ 実際に広場でプログラムを開催

❼ さまざまな人に声をかけ活動プログラムの内容も充実、人気プログラムに

❽ 活動の中心にいるA子さんの姿にあこがれて一緒に活動したい仲間が増える

K太郎さん

- 52歳、茨木市在住30年
- 妻と2人暮らし、大学生の息子は東京で下宿暮らし
- 市内の会社に勤める会社員
- 趣味は釣り、アウトドア
- 町内会やPTAの活動は積極的に参加

❶ 勤めている会社の業務がきっかけで広場でイベントを開催

❷ 広場で活動する人たちや市民活動団体と知り合いになる

❸ 他の団体のイベントにも顔を出すようになる

❹ 知り合った人たちと話が弾み、プライベートで付き合うような友だちができる

❺ 毎週、広場のイベントに来るようになる

❻ どんどん友だちが増えていく

❼ いつの間にか、広場での出来事が気になってしかたないほど広場の大ファンに

E美さん

- 40歳、茨木市在住40年
- 夫と高校、中学、小学生の3人のこどもと5人暮らし
- 市民活動コーディネーター
- 趣味は手芸、スポーツ観戦
- 子育て中心の生活から、少しこどもの手が離れてきたところ

❶ 知り合いが開催する広場のイベントに遊びに来ていた

❷ 「育てる広場」プロジェクトのワークショップの案内を広報でみて興味がわいた

❸ 広場のイベントで知り合った職員にワークショップのことを聞いて、参加することを決意

❹ 「ミルミルフムフムツクール」に参加

❺ ワークショップを通して自分たちで企画した活動をスタート

❻ 市民活動のコーディネーターにも興味がわき、コーディネーター養成講座「コトレッジ」に参加

❼ 市民活動コーディネーターとして活躍

O介さん

- 32歳、茨木市在住32年
- 両親と3人暮らし
- アーティスト
- 趣味は建築散策、ギター
- 茨木市でアート活動を展開

❶ 個人事務所を立ち上げ、市役所と連携してアートイベントなどの取り組みを実施

❷ 広場がオープンして市役所から声をかけられ、広場で活動を始める

❸ 設計者が伊東豊雄さんと知り興味がわき、設計ワークショップに参加

❹ 「ひろばかいぎ」や「ルールづくり会議」など、広場のしくみづくりにも興味を持ち参加

❺ ワークショップや広場でのイベントを通して知り合いが増える

❻ 知り合った人や団体と広場でコラボ企画などを展開

❼ 活動してきた仲間と連携し、新たな活動や仕事に発展している

U子さん

- 27歳、茨木市在住5年
- 茨木市に移住し1人暮らし
- 茨木市職員
- 趣味は料理と読書
- 市民に親しまれる職員を目指して日々奮闘中

❶ 市役所職員として業務に従事

❷ 若手職員を対象にした、市民との協働・共創によるまちづくりに向けた庁内勉強会のメンバーに選出される

❸ 勉強会でワークショップや他自治体の先進事例を視察するフィールドワークを体験

❹ 自分たちでテーマを設定し、チームで協力して研究・発表

❺ これまでプライベートで参加したことがなかった市役所主催のイベントに、興味がわき参加してみることに

❻ 「おにクルへ行こう！大作戦」で、初めて市民活動センターと協働してプログラムを開催。市民活動団体ともつながりができた

❼ 親子向けの教室を企画し、庁内勉強会で同じチームになった他部署の職員と連携して実施

❽ 日常業務でも市民参加を意識したり、部署間の連携を検討しながら進めている

おわりに

「育てる広場」プロジェクトのこれから

おにクルのオープンに向けて、さまざまな参加のかたちをつくってきた「育てる広場」プロジェクト。
“つくる”、“つかう”、“かんがえる”を大切にしてきたプロセスは、数多くの市民の参加によって進められてきました。たくさんの物語が生まれる中で、参加した人たちや場所、そしてプロジェクト自体がスパイラルアップしながら成長してきたことに大きな意義があります。
おにクルでは、多様な人たちが関わり、新たな物語を生みだすため、オープン後も市民のみなさんに育ててもらう場になっていくことが期待されています。どんな出会いが生まれ、どんな使い方がされるのか、ここからが新たなスタートです。
おにクルは茨木市のシンボルとして、ここから市内の各所へ、さらにはまちじゅうに、みんなでつくる「育てる広場」のコンセプトを忘れずにその魅力を広げていきます。

「育てる広場」プロジェクトについて知りたい！

茨木市 市民文化部 共創推進課
住所：茨木市駅前三丁目9-45 M2階
TEL：072-631-0277
E-mail：kyousou@city.ibaraki.lg.jp

活動がしたい！

茨木市市民活動センター「きゃぱす」
住所：茨木市駅前三丁目9-45 7階
TEL：072-623-8820
E-mail：capas@ibaraki-npo.jp

おにクルを使ってみたい！

おにクルみらい
住所：茨木市駅前三丁目9-45 M2階
TEL：072-631-0296

「育てる広場」プロジェクトを担当した茨木市職員
向田 明弘. 末松 寿夫. 山脇 知郎. 山根 香織. 吉田 巧. 澤田 晴光. 的場 理.
曽根崎 俊. 石川 ひかる. 松井 佑梨子. 川嶋 俊貴. 三宅 遥. 中田 悠紀.
蔭本 真由美. 阿南 由美子. 野口 真樹. 野口 美保. 能勢 郁子

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

市民とともに、おにクルができるまで
「育てる広場」プロジェクトブック
茨木市

2023年11月 ／ 初版第1版発行

発行	茨木市 市民文化部 共創推進課
監修	studio-L
編集	太田未来. 渡辺直子. 林彩華. 平野紗矢香
文	太田未来. 醍醐孝典. 林彩華. 平野紗矢香. 厚毛佑太. 茨木市
デザイン	三枝俊輔. 厚毛佑太
イラスト	ミヤザキコウヘイ
写真	厚毛佑太. 太田未来. 林彩華. 平野紗矢香. 茨木市
印刷	株式会社グラフィック